

「しなやろ」は親の意見の押しつけ

子どもは命令して動かせるものだと思っているお母さんはいないでしょうが、気がつくくと、子どもにこんなふうに言っているのではないでしょうか。

「ほら、もう朝よ、起きなさい！」

「早く食べなさい！」

「ちゃんと宿題しなさい！」

こういった「しなさい」という言い方は、命令形です。

大声で怒鳴ろうと、優しくゆっくり言おうと、結局は自分の言うことに相手を従わせようとしていることに違いはありません。命令形の言い方に対しては、子どもは「はい」という返事しかできません。それ以外のことを言うと言いつつ受け止めてしまおうし、そもそも「はい」以外の返答は許されなことを肌で感じています。

つまり、お母さんは子どもに「伝えてある」つもりかもしれませんが、命令形では、親の思い（都合）を子どもに「押しつけている」だけなのです。もし、子どもなりに「はい」と言えない理由が何かあったり、ほかに言いたいことがあったとしても、すべて心の中にしまわれてしまいます。親から一方的に言われただけなので、子どもは理解も納得もできず、だからそのときは従っても次からはまた元通り。結局、親は何度でも同じことを言わなければならない羽目になるのです。

「しなやろ」の提案型に

大人でも子どもでも、誰かに命令されて動くのが好きだという人はあまりいないでしょう。命令は相手を服従させることを目的としています。軍隊のような組織であれば、有無を言わず命令で従わせることも必要でしょうが、家庭は軍隊ではありません。親子は上官と部下という関係でもありません。一方通行な思いが子どもに伝わらないのは当たり前です。

では、どのようにすれば、親の思いは子どもに伝わるのでしょうか。